

## EUSI メールマガジン Vol. 014

### EUSI スカラーシップ報告

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)

[http://eusi.jp/content\\_jp/aboutus/about\\_eusi/](http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/)

#### 【2012年度 EUSI スカラーシップ報告 No.1】

市毛きよみ(慶應義塾大学大学院 法学研究科政治学専攻 後期博士課程2年)

この夏、2012年度 EUSI スカラーシップ生として渡欧させていただき、大変有意義で貴重な時間を過ごさせていただきました。今回、このメールマガジンで、私の活動報告をエッセイとしてお届けする事になりました。

私のスカラーシップの目的は、博士課程の研究に関する資料を収集する事でした。博士課程での研究は、イギリスの装備調達、特に戦闘機のヨーロッパ諸国との国際共同開発という調達に、欧州が統合していく事はいかに関係してきたのかというものです。

この大きな問題意識の中から、資料収集にあたっては幾つかのテーマを設け、資料収集のために訪問する機関を、イギリスのケンブリッジにある Churchill Archives Centre、キューガーデンズにある National Archives、そしてブリュッセルでは Commission Central Library と NATO Archives としました。

まずケンブリッジの Churchill Archives Centre では、ブラウデン文書を中心的に見る事になりました。ブラウデンは、60年代半ば、ウィルソン政権の時に、イギリスの航空機産業の将来に関して検討するための委員会の委員長であった人物です。また、彼はイギリスの EEC 加盟に賛成していた人物でもあります。他にはサッチャーや、サッチャー政権初期に国防大臣を務めたノットの文書も閲覧しましたが、こちらは思ったより少なかったです。

ケンブリッジに到着したのは8月の半ばで、日本は非常に暑い頃でしたが、現地ではヒョウが降るくらい寒い日もありました。チャーチル・カレッジの学生寮は、独り部屋としては広く、快適な寮で、アメニティとしてチャーチル・カレッジのロゴ入りの石けんセットもおいてありました。また、パブが大学内にあるところがイギリスらしいところで、こちらではビール1 pint が3ポンドでおつりがくる値段だったと思います。資料館自体はとて小小さく、スタッフも気さくで非常にアットホームな資料館でした。

次に National Archives では、引き続きブラウデン委員会の文書の収集と、70年代初頭に始まるハリヤーとジャギューアの代替(ハリヤーとジャギューアは共に軍用航空機)に始まる次期戦闘機計画に関連する資料の収集に努めました。私が想定した以上に豊富にあったと思います。この資料館はケンブリッジとは違いとてもシステムティックで、とても整理が行き届いていました。資料室では、青いブレザー姿のスタッフが常に何人も巡回して見張っていました。また、日本人の研究者の割合が多い事も特徴的だったと思います。

一ヶ月以上の滞在ののち、大陸はブリュッセルへユーロスターで移動しました。ブリュッセルでは NATO と Commission Central Library を訪問しました。この二つの資料館では、主にヨーロッパ側の、アメリカの軍用品市場の一方通行に対する '両面通行' 化への主張、軍事産業市場の統合への取り組みに関するものを中心として調べていきました。

NATO 本部の資料室は今回訪問した資料館の中で一番小さく、スタッフは一人、訪問者も私一人でした。NATO の場合は欲しい資料番号を紙に書いて提出し、帰国後に NATO のロゴ入りの CD に自分の名前と研究テーマをいれて送ってくれます。スタッフはとても親身で、私に役に立ちそうな資料を調べて持ってきてくれたり、ランチは毎回一緒に NATO 内の食堂でしました。また、私が食事はルームサービスしか食べてないという、「ブリュッセルに来てビールやベルギー料理を食べずに帰国させるわけにはいかない」といって、なんとベルギー料理のレストランへディナーに連れて行ってくれました。プチ観光とお土産の買い物にも連れて行ってくれ、NATO で働くアーキビストの方とデートをするという貴重な体験もする事ができました。

反対に、Commission Central Library は大きな建物で、新しく綺麗な所でした。私は、外国人訪問者担当の女性のオフィスで面接のようなものをしてから資料室に通されました。検索がしやすく、EU に関連する書籍等も集められているので、EU 研究には便利な場所だと思いました。しかしなによりも驚いたのは、印刷とコピーが全部無料だった事です。こうした研究環境の整備が、現在毎年数多く出版されている EU 関連の書籍につながっているのだな、と感じました。

全体で約一ヶ月と三週間のながい旅となりました。自分が最初に考えていた以上に、沢山の資料に出会う事ができましたし、進めていく中で、明確化していった問題意識もあり、非常に意味のある初めての資料収集になったと思います。このような機会を与えてくださった先生方や、沢山のアドバイスをくれた大学院の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

しかし収集しただけで終わりではありません。これから、これらの材料を文章という形にしてはじめて、このスカラーシップを本当の意味で実りあるものにできたといえると思います。

### 【EUSI イベントご案内】

#### EUSI 公開講座「民主化と EU 加盟は中・東欧の社会をどう変えたか」

日時: 2012年11月24日(土) 13:00-17:00

会場: 津田塾大学 千駄ヶ谷キャンパス 津田ホール 1F T101,T102

参加費: 無料 (申込み要)

申込・問合せ先: EUSI 津田分室 (eusi@tsuda.ac.jp / TEL 042-342-5134)

講演:

「ポーランド市民にとって EU とは何か?」

小森田秋夫 (神奈川大学法学部教授)

「ルーマニアの汚職対策に見る『EU 化』の光と影」

藤嶋亮 (首都大学東京・文教大学非常勤講師)

「EU 加盟とラトヴィア・ナショナリズム--愛憎入り混じる社会意識」

中井遼 (早稲田大学政治経済学術院助手)

ディスカッサント: 吉岡潤 (津田塾大学学芸学部准教授)

司会: 網谷龍介 (津田塾大学学芸学部教授)

[http://eusi.jp/content\\_jp/outreach/seminar/20121124\\_publiclecture.html](http://eusi.jp/content_jp/outreach/seminar/20121124_publiclecture.html)

### 【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

小川英治 (EUSI 理事長、一橋大学副学長)

「シティ激震！ 終わりが見えない LIBOR スキャンダル」

『プレジデント』第 50 巻第 4 号(2012 年 9 月 3 日刊行)

田中俊郎 (EUSI ガヴァナー、ジャン・モネ・チェア、慶應義塾大学名誉教授)

「EU は連邦に移行しつつある」

『週刊東洋経済』臨時増刊(2012 年 9 月 28 日刊行)

### 【EU に関するニュース】

2012 年 10 月 15-26 日 欧州委員会・ECB・IMF トロイカ合同調査団、スペイン金融支援に関する調査・協議

2012 年 10 月 16 日 ショイブレ独財務相、加盟国の予算に拒否権を持つ「通貨担当欧州委員」創設を提唱

2012 年 10 月 16 日 ピエパルグス欧州委員(開発担当)、EU 市民の多数派が最貧国への開発支援増額支持と発表

2012 年 10 月 16 日 ファビウス仏外相、米倉経団連会長とパリで会談。日・EU EPA 交渉はバランス重視との見解

2012 年 10 月 17 日 欧州委員会・ECB・IMF トロイカ、ギリシャ経済調整計画協議の訪問終了

2012 年 10 月 17 日 欧州委員会、バイオ燃料生産が気候に及ぼす影響を抑える新たな提案を発表

2012 年 10 月 18-19 日 欧州理事会、ブリュッセルで開催。EMU 強化のための統合された金融枠組に関して採択

2012 年 10 月 18 日 欧州理事会開会に合わせて、ギリシャで新政権下 2 回目のゼネストを決行。緊縮財政反対

2012 年 10 月 19 日 欧州株式市場、5 営業日ぶり反落。銀行監督一元化構想をめぐる欧州理事会の不一致により

2012 年 10 月 19 日 アシュトン EU 上級代表、レバノン首都ベイルートにおける爆発事件に対し強い非難を声明

2012 年 10 月 21 日 クノット蘭中銀総裁、10 月 16 日のショイブレ独財務相の通貨担当欧州委員権限強化を支持

2012 年 10 月 22-26 日 アシュトン EU 上級代表、中東訪問(ヨルダン・レバノン・イスラエル・パレスチナ)

2012 年 10 月 22 日 欧州委員会、原発事故以来規制していた日本からの食品輸入条件の緩和を承認

2012 年 10 月 22 日 バルニエ欧州委員(域内市場・サービス担当)、銀行支援・清算を担う機関を来年提案と表明

2012 年 10 月 22 日 ボルジ・マルタ外相、ダッリ辞任以降空席だった保健・消費者政策担当欧州委員に就任

2012 年 10 月 22 日 Eurostat、ユーロ圏・EU27 カ国の財政赤字は GDP 比 4.1・4.4%、政府債務は 87.3・82.5%と発表

2012 年 10 月 23 日 欧州委員会、2013 年度業務計画(CWP)採択。EMU 構築・雇用のための成長など 7 項目を中心に

2012 年 10 月 23 日 欧州委員会、金融取引税について強化された協力の承認を提案

2012 年 10 月 23 日 欧州委員会、大手企業取締役会の女性比率を 2020 年までに 4 割とする構想を 1 カ月採択延期へ

2012 年 10 月 23 日 ロシア下院、国家反逆罪の適用大幅拡大採択。25 日アシュトン EU 上級代表、憂慮を表明

2012 年 10 月 24 日 ドラギ ECB 総裁、ドイツ連邦議会で証言、新たな国債購入プログラム(OMT)に対する理解求める

2012 年 10 月 24 日 欧州委員会、温室効果ガスの排出削減進捗状況に関する年次報告書発表。18%の減少達成

2012 年 10 月 24 日 欧州委員会、最も恵まれない人々の援助の新たな基金設立を提案

2012 年 10 月 24 日 欧州委員会、Microsoft 社にブラウザ選択に関する約束不履行に対する異議告知書を送付

2012 年 10 月 25 日 欧州議会、日・EU EPA 交渉開始を決議するも、自動車等の非関税障壁除去なくば中断を主張

2012 年 10 月 25 日 欧州議会、男性のみで構成された ECB 人事を否決

- 2012年10月25日 EU理事会、庇護を求める人々の受入れ基準に関する合意採択。生活水準向上・虐待防止整備
- 2012年10月26日 欧州議会、思想の自由のためのサハロフ賞を2人のイラン活動家へ授与と決定
- 2012年10月26日 欧州委員会、WTOのラオス加盟認可決定に対して歓迎と通商支援を表明
- 2012年10月28日 ドラギ ECB 総裁、10月16日のショイブレ独財務相の通貨担当欧州委員権限強化を支持
- 2012年10月28日 ウクライナ議会選挙実施。翌日アシュトン EU 上級代表ら、民主的選挙実施への注視を声明
- 2012年10月29日 榛葉外務副大臣、訪日中の欧州議会対日交流議員団と、EPA やエネルギー政策などで意見交換
- 2012年10月29日 アシュトン EU 上級代表、シリア停戦の努力に対して全面的支援を表明
- 2012年10月29日 Eurostat、EU=ASEM 参加アジア 19カ国との貿易統計発表。対日貿易減少も対中露印貿易増加
- 2012年10月30日 エルドアン・トルコ首相、EU 加盟交渉停滞に関し、2023年までの加盟を期限との認識を表明
- 2012年10月30日 シュヴァイスグート駐日 EU 大使、InterFM 番組のインタビューに出演
- 2012年10月31日 ユーログループ財務相会合、ギリシャとトロイカとの経済調整計画に関する合意に留意
- 2012年10月31日 EU、89カ国の途上国を対象とする改定特惠関税制度(GSP)を発表。2014年1月1日発効予定
- 2012年10月31日 Eurostat、9月失業率発表。ユーロ圏 11.6%(1849万人)で微増、EU 全体は 10.6%(2575万人)
- 2012年10月31日 第5回 european design を東京で開催。日・EU 貿易投資促進"EU Gateway Programme"の一環で

### 【編集後記】

10月25日、EUSIはベルギー・ブラッセルで、日本・EUのEPA/FTAに関するコンファレンスを開催しました。現地では日欧産業協力センター等に御協力頂き、EU委員会と日本政府当局者、日欧双方の産業界を代表する方々にスピーチを頂きました。

折から日欧間の交渉が始まろうとする時期であり関心も高く、70名近い参加者から活発な質問を頂きました。特に、日本企業のみならず、欧州の現地企業からの参加の多かったことが、予想外の収穫だったと考えています。

EUとのEPA/FTAでは韓国に先行されていますが、今後交渉が順調に開始・進展されることを願っています。

(林 秀毅・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

先週は、アメリカ大統領選挙と中国共産党第18次全国代表大会という、二つの大国で指導者が決まる、重要なイベントの集中した忙しい一週間となりました。アメリカはオバマ大統領の再選、中国では胡錦濤・温家宝体制から習近平・李克強体制へと指導部交代が行われる予定です。

翻ってEU域内でも、今年は4-5月のフランス大統領選挙、そして6月のギリシャ総選挙という、世界的にも大きく注目された選挙がありました。

民意を決める手続には、極めて大きな大衆のうねりや情熱・期待が交錯するもので、そこには巨大なダイナミズムが働きます。オバマ大統領がシカゴでの勝利演説で述べたように、3億人もの民意を決めるというのは、極めて大きなエネルギーや互いの違いがありますが、それこそ民主主義社会の持つべき姿であり、それは変えるべきではありません。

互いの違いを乗り越えてこそ作られる社会には強靱さがあり、それはEUの持つ民主主義社会にも当てはまります。そのようなことを改めて考えさせられる機会となりました。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

---

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo  
〒186-8601 東京都国立市中 2-1  
一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局  
TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての  
問い合わせにつきましてはこちら  
E-mail: info@eusi.jp

---